

# 原告生徒・卒業生3名の意見陳述

M・T

Y・E

T・H

M・T

私は高槻南高校をこの春卒業した28期生のM・Tです。この高南廃校問題は私を含め、本当に多くの生徒が悲しみ、怒りました。そしてその感情は今も消えることなく、心の傷として残っています。今、ここで私たちが代表として、お話しても、それは傷ついた心の一部であり、高槻南高校の不利益のほんの一部であって、私たちが受けてきたことというのは言葉で言い尽くすことは出来そうにありません。それらをどこまで表現できるかわかりませんが、傷つき、不利益を受けた、または受けている、多くの生徒の気持ちを出来る限り、代弁していきたいと思います。

私達が島上高校と高槻南高校の統合という事実を始めて知ったのは、テレビの報道からでした。9月1日の始業式に校長先生の話で初めて知ったという人もいました。正直言って、島上高校と統合されるのは別の高槻市内の高校といううわさが流れていました。ホームルーム活動や学校行事が活発で、単位制高校とはまったく逆を行っている高槻南が対象になるということは誰にも予想できないことだったのです。

私達の一番の疑問は、「なぜ高南が選ばれたのか？」ということでしたが、校長先生の話は「廃校ではない」というくらいで私たちの疑問に答えてくれるものではありませんでした。その疑問は解決されないままでしたが、私は当時2年生で、生徒会執行部に入っていましたので、目の前に迫った体育祭・文化祭を今まで以上に素晴らしいものにしたい、という気持ちで全力を挙げていきました。3年生の先輩たちはその頃から誰が言い出すというのでなく、毎日街頭署名をはじめていました。そして、その疑問が解決されないまま、前期生徒会執行部は終わり、10月11日の後期執行部の立会演説会を迎えました。

立会演説会という場ではありましたが、私達は生徒総会を要求することを決議しました。そして、何人かの3年生が突然、校長先生に私達の疑問をぶつけました。校長先生は「私ではもう説明できないので、教育委員会の方に私が連れて行きます」というようなことを言われました。その結果、10名程に絞って代表が教育委員会と話しあうことになりました。私たちは教育委員会の人達に直接会って精一杯私達の気持ちを伝えたら、わかってもらえて、もしかしたら廃校がなくなるんじゃないか、という期待をもって教育委員会を訪問しました。

廃校を何とか止めたいという気持ちで新しく執行部に入ったソフトテニス部の2年生の生徒は、涙で何度も声を詰まらせながら、いかに高南ソフトテニス部と高南の広いコートを大事にしているか、高南生が

いかに高南を愛しているかを懸命に訴えました。しかし、教育委員会の人たちは「廃校でない。新しい学校に協力してほしい」と言うばかりでした。「なぜ高南なのか？」という疑問に対する答えは、「高南はわかりやすい授業をしている」とか「ベストカップルなのです」などと全く内容のない理由で、理解できるものではありませんでした。その時の質疑応答に関しては資料を見てください。また、私たちは教育委員会の方に高南に実際に来て、校舎や授業や放課後のクラブ活動を見てもらい、高南生徒の声を直接聞いてもらえたら、高南がいかにすばらしい学校であるかわかってもらえると思っていました。だから、高南に来て全校生徒向けに説明会をやってほしいと要求しました。その場での説明会についての回答は、「検討する」という返事だったのですが、結局教育委員会から返事をもらうことはなく、校長先生に聞くとダメになったと聞かされただけで、実現することはありませんでした。

そこで私達は教育委員会事務局ではなく、直接教育委員の人たちにビデオレターを作って送ることにしました。高南のすばらしさを映像であれば少しは伝えられるのでは、と思ったからです。しかし、三林教育委員は「ビデオデッキがない」という理由で、見ようともせず、着払いの郵送で送り返してきました。

11月15日、翌日に教育委員会会議があるという日に、最後の署名提出を行いました。その日は、代表だけでなく、一般の生徒も参加して、バス3台、150人で教育委員会を訪問しました。その時は私たちが集めた16万の署名を置くか、置かないかということが議論の中心になり、事務局の方は署名の数を教育委員会会議の場で報告することを約束しました。実際は教育委員会会議で署名を置かれることもなく、数を言われることもありませんでした。

私達は、今まで「教育委員会って私たちのための教育を考えてくれる人達だ。」と何となく考えていましたが、今はそれがはっきり間違いであったと思っています。教育委員会ははじめ、「これは案である。しばらく検討する期間を設けた後に、教育委員会議で決定する」と言っていました。しかし、結局自分達の決めた案を変更することなど全く考えてなかったのだと思います。高槻市と茨木市を中心に16万人の人が署名したという事実や、高槻市議会が採択した意見書を簡単に無視できるということがそれを示しています。

また、教育委員はこれほど反対運動が起こっているのなら、実際に現場に足を運んで、生徒や保護者と会って、意見を聞くのが仕事ではないのでしょうか。結局「忙しい」とか「行けば情が移る」などという理由で誰一人として高南に来ることはありませんでした。少しはいいことを言ってくれた人もいましたが、結局は事務局の言いなりでした。

そして私達高校生は、一番の当事者であるはずなのに、事前に何の相談もされることはなかったばかりか、あれほど要求し続けた説明会を開いてもらえませんでした。保護者や同窓会向けの説明会はあったのに、私達にはなかったのです。それほど高校生は未熟で、説明を聞くことも、意見を言う場も与えられることもできないのでしょうか。私は私達にあるべき正当な権利が侵害されたと思っています。

最後に、私は今年高南を卒業しましたが、今年の夏が終われば、かなりのクラブが廃部になるだろうと

聞いています。軟式野球部をはじめとした、高南ですばらしい実績を誇っていたいくつかのクラブは槻の木高校では作ってもらえなかったそうです。またあるクラブは槻の木高校との合同を申し入れたけど、断られたそうです。2年前に、「合同チームでやっている」「心配ない」と教育委員会事務局の人が私達に言っていたことがまったくでたらめであったことがはっきりしてきました。私達は教育委員会に裏切られた悔しい気持ちでいっぱいです。高南を今のままで残してください。

## Y・E

私は高槻南高校の元生徒会長をしていた3年のY・Eです。私はあの案の発表から、教育委員会が言ってきたことがいかにウソばかりであったか、クラブ活動の話を中心に話していきたいと思います。

教育委員会は最初から最後まで廃校ではなく、統合だと言い張っていました。私たちは本当に統合であると言うのなら、高槻南の活発なクラブ活動を一体どうやって引き継いでいけばよいかという疑問をぶつけてきました。教育委員会の返事は、夢みtainなことをべらべら並べて、無責任にも、とても簡単そうに「生徒の皆さんに協力するという気持ちがあればできる、バスを出すなど、私たちはできるだけのことをします。あなたたちの協力も必要です。」というものでした。私たちはもちろん高槻南の伝統を引き継げるものなら引き継ぎたいと思っておりまし、ではどうすればいいのかという具体的な方法を聞きたかったのですが、最後まで納得できる説明はされないまま、今年、4月に槻の木高校の開校を迎えることになりました。

そして槻木高校では今、たくさんのクラブ活動が新しく発足しているそうです。槻木高校で高槻南のクラブ紹介をしないか、という申し出がありました。各クラブではそれぞれ複雑な思いがあって、いろいろ考えた上で、いくつかのクラブが紹介をしにきました。他のクラブは紹介の冊子を作って配りました。

そして、私たちの不安は実際にいろいろな形で現実のものとなっていきました。例えば、体操部はクラブ紹介で模範演技をして、感激した新入生の中に、入部を希望する生徒もいて、何回か高槻南に練習にきていました。けれども、槻木高校では顧問の先生がいなくて、などという理由で、体操部は作らないと決めたとされています。高槻南の生徒も槻の木の高南も意気投合し、さあこれから、というところで、生徒のやりたいという気持ちは打ち砕かれてしまったのです。重たい道具を槻の木高校にまで運んで、一生懸命演技をした体操部の人たちの気持ちはどうすればいいのでしょうか。そして他にもラグビー部・軟式野球部も同じように作らないとのことでした。私達は統合案が出た時から、高槻南のクラブを引き継ぐことは到底できないと思っていましたが、やっぱりムリだったのです。そしてすでに廃部となったクラブ、3年が引退したら活動できなくなると思われるクラブはいくつもあります。

高槻南の軟式野球部は去年、私学の強豪を次々と打ち破り大阪大会で優勝し、全国大会や、国体に出場するなど、とてもすばらしい実績を残しています。こういう高南軟式野球部は府立高校の貴重な財産であるとは思いませんか。このクラブをどうやったら残すことができるのでしょうか。これはあの時、教育委員会の「協力しあえば出来る」という言い分と反していると言えないのでしょうか。統合案が決定されると

きに、教育委員会会議である委員がこう言っていたそうです。「高槻南はクラブ活動が活発。クラブ活動についても、こうやって継続されていることを示し、不安材料を取り除くようしてあげて欲しい。」と。私たちの『不安材料』を取り除く努力なんて教育委員会は全くしてこなかったし、ほとんどの高南のクラブは教育委員会によって見殺しにされた、と私たちは思っています。教育委員会は口では高槻南の伝統を引き継ぐと言いながら、本当に引き継ごうという気などまったくなく、その場しのぎのでまかせだったとしか思えません。高槻南が30年かけて積み重ねてきた伝統を無責任に引き継ぐと言い切ったまま、つぶれていくクラブに見向きもしない教育委員会に私達は悔しい思いと怒りでいっぱいです。

私個人は陸上部に入っていました。わたしが入部したときに、先輩たちはとても熱心に指導してくれたことをよく覚えています。1年生のとき駅伝チームを組みました。この練習は本当に、正直、しんどくて、辛くて何度もくじけそうになったりしました。でもそんな時、3年生の先輩が叱ってくれたり、励ましてくれて、私も駅伝を走りきることができたのです。そんな事もあって、私には3年生の先輩がとても格好良く見えました。わたしの憧れでした。そして、自分が3年生になったときに、先輩のように1年生に教えることがとても楽しみでした。

そして、いざ自分が3年生になって、1年生は入ってきませんでした。わたしはもう既にクラブを引退していますが、今でもそのことが心残りです。わたしの大事な夢を教育委員会によって取り上げられてしまった、この悔しさは今でも抑えることができません。

クラブだけではありません。3学年揃ってやる文化祭・体育祭などの学校行事は、高校という場にとって、絶対に必要なものではないですか。私達はそんな大切な楽しみ・喜びを体験する機会を奪われようとしているのです。ほとんどの高槻南のクラブが廃部になっていく現実を見てもまだ「廃校ではない、統合だ」というウソを私達に言い続けるのですか。

## T・H

私は高槻南高校3年生のT・Hと申します。

私は高南に入って本当に良かったと思っています。

私はバレー部でした。毎年のように近畿大会出場という伝統を持つ高南女子バレー部でしたが、今年の6月8日をもって廃部になりました。最後には選手7人になってしまいましたが、素晴らしいクラブでした。

私はバレー部に入って本当に良かったと思っていますが、ただ一つ心残りがあります。後輩たちがクラブを続けられなかったことです。バレー部には3人の2年生がいました。どの子もみんないい子で、バレーが本当に好きで、一生懸命取り組んでいて、いつも支えられていました。

後輩たちは本当に高南のバレー部が好きだったからこそ、私たちと一緒に引退することを決めました。そのことについて、後輩たちの中に少しも不満の色は見られませんでした。私はある日、ある子に心配で「本当に引退していいん？バレー楽しくない？」と聞いてみました。その子の答えは「バレーは楽しい」

ということでした。また、ある子は「ママさんバレーとかに遊びに行く」と言っていました。私はあの子達に、高南で普通にバレーを続けさせてあげたかったです。みんな、本当にバレーを楽しんでいました。

バレー部だけでなく私たち生徒は本当に高南が大好きです。体育祭、文化祭は、毎年すごく盛り上がります。体育祭では応援合戦や、デコレーションも毎年すばらしいしあがり、その後ほとんど準備期間の無い中でも、文化祭・中夜祭を盛大に盛り上げます。一人一人がそれぞれの役割を精一杯果たし、成績発表の時には毎年たくさんの生徒が涙します。

一年生の体育祭の時私はデコレーションをやりました。デコレーションは各団ごとに自分達の団のモチーフを大型のパネルやマスコットで製作します。私は赤団で火の鳥をつくりました。最初火の鳥を作るって聞いたときは「ほんまに出来るのかな」って思ったけど、3年生の先輩たちがすごくしっかりしていて、どんどん骨組みが出来上がっていきました。また、3年生の先輩たちはとてもやさしくて、作業しながら喋ったりするのがとても楽しく、「高南っていいなあ」としみじみ実感しました。学校が始まってからは時間が無い中で朝早くから集まって放課後遅くまで頑張りました。でもちっとも苦痛じゃなくて、毎日が充実していました。

そんな準備が進んでいた中で8月30日を迎えたのです。みんなが「高南つぶれるのいややなあ」と言っていました。私はまだそのときは高南に入ったばかりで、ただ「信じられへん」って思いが強かったけど、先輩たちは本当に悲しそうでした。体育祭の途中では校長先生の反対を押し切って、みんなで高南にメールを送りました。前に出て「フレイフレー高南」と叫ぶ先輩たちの姿はとても格好良く、そのあとにはみんなの「フレイフレー高南」が運動場中に響きました。会場からは大きな拍手が起こり、みんなの気持ちが一つになった瞬間でした。また、去年は体育祭・文化祭とも3学年揃ってやる最後の高南祭だったので、いつもよりたくさんのOBの先輩たちや、近所の人達が見に来てくれて、多いに盛り上がりました。今年も例年通り体育祭・文化祭を行う予定です。高南らしく一生懸命盛り上げようと思っていますが、やっぱり2学年しかいないと思うととても寂しいです。来年は行われるかどうか分からないのです。高南祭には去年だけでなく、毎年地域の人達もたくさん足を運んで来ています。ベランダから見る体育祭が年に1度の楽しみだと、言ってくださったおばちゃんもいます。去年の文化祭では、私が受付の係りをしていると、あるおばあちゃんが「高南がなくなることが本当に悲しい」と言ってくれました。高南は地域の人からも愛されている学校なのです。

体育祭の準備の中でしたが、私たち生徒は反対運動に立ち上がりました。先輩たちは応援団やクラブが終わったあとにも自分達で駅などに集まり、声を上げて署名を求めました。駅には毎日毎日高南の生徒の音が響きました。また各自で出身中学校に行き、ある学校では署名を断られ傷ついた子もいましたが、それでもあきらめず最後には駅を変えてまで出来る限り集めました。10月26日には署名提出のため生徒73名で大阪府庁を訪れました。何人かの生徒は中に入り、署名提出した後、質問したり、この統合案の不当さを訴えました。その時にも、中に入れなかった生徒は1時間以上も寒い中、手を震わせながら署名活動をしたのです。署名が集まれば高南は助かるのだと信じていました。そして、その結果、署名の数は16万人にも上りました。わたしたちはその数に自分たちでも驚き、また、改めて高南のすばらしさを実感し

ました。高南は本当に良い学校です。みんなが高南を好きだったからこそ、16万もの署名が集まったのです。教育委員会会議の中でも、ある教育委員の方から、「高南は公立高校健在なりの象徴のひとつだ」という発言がありました。こんな学校を本当に潰してしまってよいのでしょうか？わたしたちは絶対に納得できません。昨年全国大会に出場した軟式野球部をはじめ、毎年好成績を残してきたたくさんのクラブが廃部になっていきます。地域の人達も楽しみにしてくださった、体育祭・文化祭も今年で最後になるかもしれません。人数がぎりぎりの中で、今でも頑張っているクラブや、体育祭・文化祭をすることができなくなるかもしれない私たちの後輩はどうなるのですか？たくさんの人に愛されている高南は本当につぶされてしまうのですか？こんなことがあっていいのでしょうか？お願いします。高南を潰さないでください。お願いします。